

平成22年度八重山群島病害虫発生予報第11号(2月予報)

2月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	50	20	40
平年並	30	40	40
低い(少ない)	20	40	20

(平成23年1月28日付沖縄气象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	18.6	21.1	16.4	122.5	76.3

(沖縄气象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

2月の発生予報および防除上の注意事項

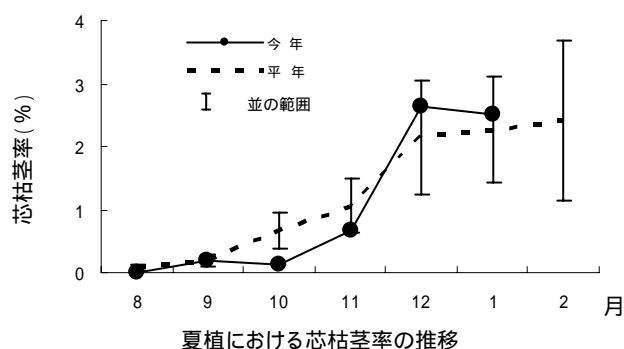
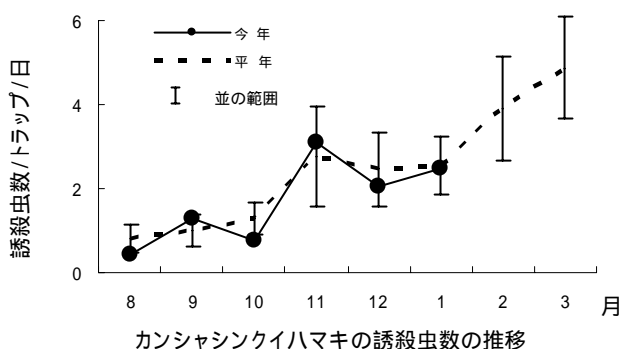
1 さとうきび

(1) メイチュウ類

発生程度 : 並

予報の根拠

- 1月のカンシャシンクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.5頭(前年1.3頭、平年2.5頭)と平年並であった。
- 1月下旬の調査の結果、夏植圃場での芯枯茎率は2.5%(前年2.4%、平年2.2%)と平年並であった。



< 防除上注意すべき事項 >

- ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 夏植えの培土時や春植えの植付時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を施用する。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。

収穫後圃場におけるカンシャコバナネナガカメムシの防除対策

- 収穫の際に地上に落下した卵や越冬成虫は地表や株元に残存し、収穫後の株から伸びた幼茎などで生育する。
- 卵の死亡率を高め、第1世代の発生を抑制するため、収穫後は全面および畝間の耕耘を速やかに行う。

2 マンゴー

枝枯細菌病の防除対策

- 1月下旬の調査の結果、一部園地で発生がみられた。
- 本病は強風による折損等により細菌が侵入し発病することから、防風対策を図る。
- 剪定した発病枝は本病の感染源となるので施設外へ持ち出し処分する。
- 発病枝を剪定した後の剪定器具の消毒を徹底する。

炭疽病の防除対策

- 1月下旬の調査の結果、一部園地で新梢に発生がみられた。
- 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、今後袋がけ前までの防除対策が重要である。
- 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- 花芽分化～開花時期には、予防効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

チャノキイロアザミウマの防除対策

- 1月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0.1頭未満(前年0頭、平年0.1頭)であった。
- 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
- 混合花の新葉や不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
- 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

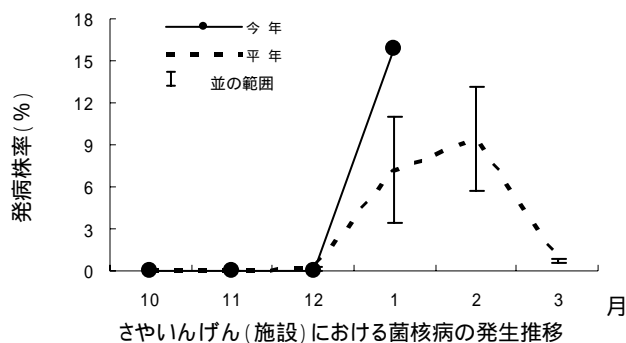
3 さやいんげん(施設)

(1) 菌核病

発生程度 : やや多

予報の根拠

1月下旬の調査の結果、発病株率は15.8%(前年3.9%、平年7.2%)と平年よりやや多かった。



< 防除上注意すべき事項 >

- 発病部位は、菌核が形成される前に除去し、ビニール袋に入れるなどして施設外へ持ち出し処分する。
- 予防散布を行い、発生が確認されたら防除を徹底する。